

## 堆肥の生産・販売に関するQ&A

((財)畜産環境整備機構 審議役 本多勝男)

Q:	堆肥の品評会に出品しました。品質には自信があったのですが堆肥の色が褐色であったため低い得点になってしまいました。黒色の堆肥が良い堆肥だそうですが、どんなに上手に発酵させても黒色の堆肥にはなりません。なぜ黒色の堆肥は良い堆肥で褐色の堆肥は劣る堆肥なのですか？どうしたら黒色の堆肥を作ることができますか？
A:	一般に知られている堆肥の採点基準では、確かに褐色(5点)は黒色(10点)の半分の点数になっています。堆肥が黒くなる原因は酸素の無い嫌気状態で発生する硫化水素です。発生した硫化水素が堆肥中の鉄分と反応して黒色の硫化鉄になるため堆肥が黒くなるのです。尿溜めや排水溝に溜まった汚泥が黒く、硫化水素の臭いがするのと同じ現象です。堆積期間が長いほど堆肥の色が黒くなったため、黒色の堆肥が良い堆肥と勘違いされていますが、黒色の堆肥は嫌気性の堆肥化を意味し、勢いの良い好気性発酵では褐色の堆肥ができます。嫌気状態でも長期間かければ易分解性有機物の分解は終了しますが、前号でも述べたとおり嫌気部分では発酵熱の代わりに悪臭や作物の生育阻害物質であるフェノール性酸などが発生してしまいます。昔は堆積期間が長いほど良い堆肥ができると思われていましたが、今では堆肥化の条件によって発酵期間は異なり、良い条件であれば短期間でも良質堆肥の生産が可能であることが良く知られています。したがって、堆積期間が長いほど高得点となる昔の採点基準は見直す必要があり、特に色の項目では黒色堆肥と褐色堆肥の得点は逆にならなければなりません。切り返しもせずに長期間放置すれば、どんな堆肥でも必ず黒くなるのですから。